



平成28年 年頭のご挨拶

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会 会長
谷口 博昭



新年明けましておめでとうございます。旧年中は、関係各位、会員皆様のご指導ご支援ご協力を戴き滞りなく各種業務を執行することができました。ここに改めて厚く御礼を申し上げる次第です。

本年も、定款にあります目的に沿って、時代の大きな変化に適切に対応しつつ、技術力及び社会的地位の向上、施工及び施工管理の技術の発展、工事の安全・品質及び効率の向上等着実な成果を上げて行きたいと存じます。

そのためには、建設事業の肝であります官民連携と現場力の向上が不可欠であります。

所謂「担い手三法」により適正な利益を得、若者の入職、定着を促進し安定的な経営基盤の確立を図り建設界が持続することが求められますが、それを可能にする受発注者のパートナーシップ精神が肝要であります。地形・地質、気候・気象条件等が異なる現場においては、施工の進捗に応じて予期しない事態が発生する事が多いのが現実ですので、現場力を発揮し迅速に効果的な対策・措置が取れることが肝要であります。官、民夫々と官民間において、トップ、ミドルと現場との不断のコミュニケーションの向上による信頼関係構築が求められます。現場

のインセンティブが働けば技術力の向上にも繋がります。ここに土木施工管理技士及び連合会の果たす役割は大きいものがあります。

昨年は、総会と理事会、国土交通省、近畿・四国・中国各地方整備局、北海道開発局と各支部との意見交換会に出席の他、橋建協支部、富山県・長野県支部の総会に出席・講演、ご懇談させて頂きました。本年も、機会がありましたら皆様方現場の生の声をお聞きし、より質の高い仕事ができる様努めてまいりたいと思っております。

昨秋ノーベル生理学医学賞を受賞された大村智氏は、“人のまねをしない”で“人のためになること”をすることの大切さを話されています。青山士の「人類ノ為メ、國ノ為メ」です。地域の安全・安心と雇用・経済を支え得るのは建設界です。社会的地位の向上のためには、インフラ・ストック効果等くらしや経済に貢献してきた実績を誇りに今後とも時代のニーズに的確に応え社会に正当な評価を受けることが肝要です。

関係各位、会員のご指導ご支援ご協力を改めてお願いするとともに、新年が皆様方にとって幸多い年となる事を祈念し年頭のご挨拶と致します。